

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	令和2年3月13日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自 令和元年11月1日 至 令和2年1月31日）
【会社名】	株式会社グリーンクロス
【英訳名】	GREEN CROSS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 久保 孝二
【本店の所在の場所】	福岡市中央区小笹五丁目22番34号
【電話番号】	092-521-6561
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 松本 光一郎
【最寄りの連絡場所】	福岡市中央区小笹五丁目22番34号
【電話番号】	092-521-6561
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 松本 光一郎
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第3四半期 連結累計期間	第49期 第3四半期 連結累計期間	第48期
会計期間	自平成30年5月1日 至平成31年1月31日	自令和元年5月1日 至令和2年1月31日	自平成30年5月1日 至平成31年4月30日
売上高 (千円)	11,398,639	12,513,297	15,450,909
経常利益 (千円)	893,422	947,636	1,244,516
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	557,433	590,029	782,142
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	508,255	612,771	742,162
純資産額 (千円)	6,735,338	7,470,291	7,069,167
総資産額 (千円)	11,609,465	12,875,684	12,302,019
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	64.84	67.69	90.84
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	64.43	67.40	90.31
自己資本比率 (%)	58.0	58.0	57.5

回次	第48期 第3四半期 連結会計期間	第49期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成30年11月1日 至平成31年1月31日	自令和元年11月1日 至令和2年1月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	28.05	28.71

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 当社は、平成30年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第48期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、株式会社G-サインを設立したことにより、第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績に関する状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中を中心とした通商問題、英国のEU離脱、中東地域を巡る情勢等に加え新型コロナウイルス感染症の拡がりによる世界経済への影響等、先行き不透明感が強まる状況にありましたが、各種政策の効果もあり底堅く推移しました。

当社グループが関係する安全機材業界及びサインメディア業界におきましては、相次ぐ自然災害からの復旧と復興に向けた公共事業投資の進捗に加え、民間設備投資も緩やかな増加傾向にある等、総体として堅調な動きが継続しております。

このような状況のもと、当社グループは経営理念に基づく総合安全産業立脚へと、レンタル事業の更なる進展に向けた各ロジスティクスの最有効活用による全社物流循環システムの整備を進めるとともに新基幹システムの戦略的活用による営業力強化に取り組んでまいりました。また、サインメディア関連事業につきましても、全国サインネットワーク網の連携機能推進による看板メンテナンスにかかる看板クリニック業務の進捗を図る等、安全やサインメディアへの様々なニーズに広範囲かつ適切にお応えすることによるシェアの拡大並びに取引深耕化に注力するとともに、本部機能の集約による経営の合理化や迅速化を図りながら営業生産性の向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は12,513百万円（前年同四半期比9.8%増）、営業利益は940百万円（前年同四半期比7.1%増）、経常利益は947百万円（前年同四半期比6.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は590百万円（前年同四半期比5.8%増）となりました。

財政状態に関する状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は12,875百万円で、前連結会計年度末に比べ573百万円の増加となりました。主な要因は、商品が280百万円の増加、レンタル品が184百万円の増加、土地が90百万円の増加等によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は5,405百万円で、前連結会計年度末に比べ172百万円の増加となりました。主な要因は、流動負債におきましては支払手形及び買掛金が458百万円の増加、未払法人税等が134百万円の減少、固定負債におきましては長期借入金が138百万円の減少等によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ401百万円の増加となり、7,470百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加372百万円、その他有価証券評価差額金の増加22百万円等によるものです。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,101,000
計	36,101,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (令和2年1月31日)	提出日現在発行数(株) (令和2年3月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	9,025,280	9,025,280	福岡証券取引所	単元株式数100株
計	9,025,280	9,025,280	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
令和元年11月1日～ 令和2年1月31日	-	9,025,280	-	697,266	-	660,866

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は、第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（令和元年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

令和2年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 305,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,719,100	87,191	-
単元未満株式	普通株式 780	-	-
発行済株式総数	9,025,280	-	-
総株主の議決権	-	87,191	-

(注) 「単元未満株式」の欄の普通株式80株は、自社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

令和2年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社グリーンクロス	福岡市中央区小笹五丁目22番34号	305,400	-	305,400	3.38
計	-	305,400	-	305,400	3.38

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（令和元年11月1日から令和2年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和元年5月1日から令和2年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,013,242	2,088,834
受取手形及び売掛金	1 3,024,537	3,073,057
電子記録債権	1 239,750	232,645
商品	1,654,354	1,935,245
レンタル品	822,896	1,007,853
原材料及び貯蔵品	149,481	175,015
その他	75,960	57,641
貸倒引当金	16,082	16,985
流動資産合計	7,964,140	8,553,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	818,429	805,003
土地	2,014,621	2,105,531
その他(純額)	135,568	119,017
有形固定資産合計	2,968,620	3,029,552
無形固定資産		
のれん	522,181	460,664
その他	185,018	153,765
無形固定資産合計	707,200	614,429
投資その他の資産		
投資有価証券	409,618	437,978
繰延税金資産	143,478	124,082
その他	152,635	163,473
貸倒引当金	43,673	47,139
投資その他の資産合計	662,058	678,394
固定資産合計	4,337,879	4,322,377
資産合計	12,302,019	12,875,684

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 3,466,297	3,925,010
1年内返済予定の長期借入金	259,308	203,596
未払法人税等	292,663	157,811
賞与引当金	327,420	362,248
役員賞与引当金	18,000	-
その他	404,640	446,943
流動負債合計	4,768,329	5,095,609
固定負債		
長期借入金	318,533	179,764
その他	145,990	130,019
固定負債合計	464,523	309,783
負債合計	5,232,852	5,405,393
純資産の部		
株主資本		
資本金	697,266	697,266
資本剰余金	747,700	749,082
利益剰余金	5,650,507	6,022,881
自己株式	114,815	109,921
株主資本合計	6,980,659	7,359,310
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87,680	110,453
その他の包括利益累計額合計	87,680	110,453
新株予約権	269	-
非支配株主持分	558	528
純資産合計	7,069,167	7,470,291
負債純資産合計	12,302,019	12,875,684

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 3 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成30年 5月 1日 至 平成31年 1月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 令和元年 5月 1日 至 令和 2年 1月31日)
売上高	11,398,639	12,513,297
売上原価	7,075,571	7,762,676
売上総利益	4,323,067	4,750,620
販売費及び一般管理費	3,445,095	3,810,066
営業利益	877,972	940,554
営業外収益		
受取利息	91	106
受取配当金	5,685	7,658
投資事業組合運用益	1,697	-
助成金収入	4,235	-
雑収入	9,807	7,724
営業外収益合計	21,517	15,489
営業外費用		
支払利息	2,486	1,925
投資事業組合運用損	-	3,006
為替差損	254	1,032
雑損失	3,325	2,443
営業外費用合計	6,066	8,407
経常利益	893,422	947,636
税金等調整前四半期純利益	893,422	947,636
法人税、住民税及び事業税	294,551	348,235
法人税等調整額	41,469	9,401
法人税等合計	336,020	357,636
四半期純利益	557,402	589,999
非支配株主に帰属する四半期純損失()	30	30
親会社株主に帰属する四半期純利益	557,433	590,029

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成31年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自令和元年5月1日 至令和2年1月31日)
四半期純利益	557,402	589,999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49,146	22,772
その他の包括利益合計	49,146	22,772
四半期包括利益	508,255	612,771
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	508,286	612,801
非支配株主に係る四半期包括利益	30	30

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間より、株式会社G - サインを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成31年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年1月31日)
受取手形	65,653千円	-千円
電子記録債権	7,061千円	-千円
支払手形	11,998千円	-千円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成31年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年1月31日)
受取手形裏書譲渡高	20,254千円	23,633千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成30年5月1日 至平成31年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自令和元年5月1日 至令和2年1月31日)
減価償却費	109,555千円	121,179千円
のれんの償却額	56,035千円	61,516千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成30年5月1日至平成31年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年7月10日 取締役会	普通株式	201,991	47.0	平成30年4月30日	平成30年7月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自令和元年5月1日至令和2年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年7月9日 取締役会	普通株式	217,655	25.0	平成31年4月30日	令和元年7月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成30年5月1日至平成31年1月31日)

当社グループは、道路安全資材、建築防災用品、保安用品、保護具及び各種看板・標識等サインメディアの製作、販売、レンタルを行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自令和元年5月1日至令和2年1月31日)

当社グループは、道路安全資材、建築防災用品、保安用品、保護具及び各種看板・標識等サインメディアの製作、販売、レンタルを行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成30年 5 月 1 日 至 平成31年 1 月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 令和元年 5 月 1 日 至 令和 2 年 1 月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	64円84銭	67円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	557,433	590,029
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	557,433	590,029
普通株式の期中平均株式数 (千株)	8,597	8,716
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	64円43銭	67円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数 (千株)	53	37

(注) 当社は、平成30年11月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和2年3月13日

株式会社 グリーンクロス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 甲 斐 祐 二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城 戸 昭 博 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社グリーンクロスの令和元年5月1日から令和2年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和元年1月1日から令和2年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和元年5月1日から令和2年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社グリーンクロス及び連結子会社の令和2年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。